

Economic Indicators

発表日: 2024 年 10 月 11 日 (金)

日本経済指標: 来週の予測と今週の振り返り

～来週の注目は「貿易収支」「全国 CPI」～

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

○来週 (10 月 15 日～10 月 18 日) の主な指標予測

	指 標 名	当社予測	市場予測	前回結果
10 月 15 日 (火)	13:30 8 月鉱工業指数・確報 鉱工業生産指数 (前月比)	—	—	▲3.3%
	13:30 8 月商業動態統計・確報 小売業販売額 (前年比)	—	—	+2.8%
	10 月 16 日 (水)			
10 月 16 日 (水)	8:50 8 月機械受注統計 船電除く民需 (前月比)	▲0.3%	▲0.2%	▲0.1%
10 月 17 日 (木)	8:50 9 月貿易統計 輸出金額 (前年比)	▲4.8%	+0.5%	+5.5%
	輸入金額 (前年比)	▲0.6%	+3.0%	+2.3%
	貿易収支 (原数値、億円)	▲3,262	▲2,121	▲7,032
	13:30 8 月第 3 次産業活動指数 (前月比)	▲0.5%	—	+1.4%
10 月 18 日 (金)	8:30 9 月消費者物価指数 (全国) 全国総合 (前年比)	+2.5%	+2.5%	+3.0%
	全国コア (前年比)	+2.3%	+2.3%	+2.8%

(注) 市場予測・レンジは Bloomberg、日経 QUICK 調査をベースに作成

・ 8 月機械受注・船舶電力除く民需 (当社予想: 前月比▲0.3% 中央値: 同▲0.2%)

8 月の機械受注 (船舶電力除く民需) は前月比▲0.3%と、2 か月連続の減少を予想する。国内消費の低迷や海外需要減速による下押しを受けて、一進一退の動きが続いたとみる。(副主任エコノミスト: 大柴 千智)

・ 9 月貿易統計・貿易収支額 (原数値) (当社予想: ▲3,262 億円 中央値: ▲2,121 億円)

9 月の貿易収支を▲3,262 億の赤字 (原数値) と予想する。数量が伸び悩む中、9 月は円高が進んだことで輸出物価、輸入物価ともに前年比マイナスに転じており、名目値では輸出金額、輸入金額ともに前年比減少となる可能性が高い。物価変動を除いた実質輸出 (季節調整値) では、生産が好調な半導体関連の電気機械を中心に前月から増加したとみられる。(副主任エコノミスト: 大柴 千智)

・ 9 月全国消費者物価指数 (生鮮食品除く総合) (当社予想: 前年比+2.3% 中央値: 同+2.3%)

CPI コアは前年比+2.3%と、8 月の+2.8%から伸びが大きく縮小する可能性が高い。酷暑乗り切り緊急支援により電気・ガス代が引き下げられることで、エネルギー価格のプラス寄与が大きく縮小する

ことが影響するだろう。エネルギーを除いたコアコア部分については前月から大きな変化はない見込み。（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

○今週（10月8日～10月10日）の振り返り

	指 標 名	結 果	市場予測	前回結果
10月8日（火）	8:30 8月家計調査(二人以上の世帯) 実質消費支出・全世帯(前年比)	▲1.9%	▲2.7%	+0.1%
	8:30 8月毎月勤労統計 名目賃金(前年比)	+3.0%	—	+3.4%
	8:50 8月国際収支統計 経常収支(原数値、億円)	+38,036	+29,070	+31,930
	14:00 9月景気ウォッチャー調査 現状判断 DI(季節調整値)	47.8pt	—	49.0pt
	先行き判断 DI(季節調整値)	49.7pt	—	50.3pt
10月10日（木）	8:50 9月企業物価指数 (前月比)	0.0%	—	▲0.2%
	(前年比)	+2.8%	+2.3%	+2.5%

・ 8月家計調査（二人以上の世帯、全世帯）

8月の実質消費支出（二人以上の世帯）は前年同月比▲1.9%となり、市場予想（同▲2.7%）を上回った。季節調整値では、前月比+2.0%の増加となった。2か月ぶりの増加だが、7月には同▲1.7%と落ち込んでいた反動の面が強く、消費の回復は鈍い。8月は、猛暑や大型台風の接近に伴い外出が手控えられたことから、宿泊料といった「教養娯楽サービス」や、自動車関係費などの「交通・通信」等が前年比減少となり、全体を押し下げた。

・ 9月企業物価指数・国内企業物価

9月の国内企業物価は、前年比+2.8%、前月比0.0%となった。「酷暑乗り切り緊急支援」として政府の電気・ガス代に対する補助金の再開が押し下げ要因となったものの、「精米」を中心とした農林水産業が前年比で大幅に上昇し、8月から前年比伸び率は+0.2%pt 拡大した。もっとも、一時より価格転嫁の落ち着きに加えて、円安修正による輸入コストの低下を反映して、「非鉄金属」「飲食料品」など多くの類別項目では緩やかな鈍化傾向が続いた。

詳細は10/10発表の「企業物価指数（2024年9月）～コメ価格の押し上げで事前予想を上回る～（<https://www.dlri.co.jp/report/macro/381576.html>）」も参照ください。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

